

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホーム モンサン井手園1		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	令和3年7月15日	外部評価結果確定日	令和3年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年からのコロナウイルス感染症流行により、職員一同感染対策の徹底に尽力してきました。御家族の面会が制限される事も有った為、寂しい思いをされないよう、日々明るく楽しく過ごして頂いています。認知症という病気を理解し、御本人や御家族の意向に沿えるような介護を実践しております。清水病院との連携が有る為、24時間健康状態の相談や受け入れをしてもらえる体制も有ります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyvosvoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年8月31日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループ内に医療法人が併設されているため、事業所への往診が定期的に行われており、利用者の容態の変化にもすぐに対応できるような環境が整っている。時津町役場や地域包括支援センター、自治会長など地域とのつながりが非常に強く、地域の一員として多くの側面で機能している。また、事業所内部においては、職員意見の反映や職員間のモニタリングによる利用者へのケアの改善に努めており、職員は、可能な限り、利用者およびご家族の意見に応じている。コロナの影響を受けて、できないことが多い中で、今できる多くのことを実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、職員はその理念を共有して、日々の業務の中で実行しています。	「楽しく・優しく・元気よく」いつも笑顔でという理念のもと、コロナ禍前は、決起集会を開催して、職員間で共有を行っていたが、現在は、毎日の朝礼時に共有を行い、利用者のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でホームでのイベントは中止してま す。地域との交流も出来ておりません。	コロナ禍前は、地域住民を交えた夏祭りや敬老会を行い、積極的な地域とのつながりを実現していた。現在は、ユニット単位での月に1度のお茶会を催し、事業所外部の方の参加もなるべく受け入れているが、地域とのつきあいが困難となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々との挨拶等は良く行われてますが、認知症についての御理解を頂く事があまり出来てません。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も実施出来てません。	奇数月の第4水曜日に運営推進会議を行い、実施したイベント報告や今後のイベント情報・コロナ禍の面談方法等を報告している。コロナの影響で書面による会議となっているが、議事録は役場へ提出し、事業所外部の意見を促すよう努めている。	コロナの影響もあり、書面による会議にならざるを得ないが、コロナ禍以前に実現されていた会議へのご家族の参加・ご家族への報告が行えるよう今後の会議の取り組み方に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時津町役場の高齢者支援課とは、事業所の入退居情報を提供したり、必要な新しい情報を得ることで連携しています。	時津町役場とは、事故報告や入退去情報の共有、地域医療の研修会の案内など多くの場面で連携が図れている。包括支援センターとは、自治会長の協力により、認知症カフェへ参加するようになり、利用者は、紙芝居や音楽を楽しんでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアは身体拘束に当たるかどうかを常に振り返り、事業所での身体拘束・虐待防止委員会の会議にて意見交換を行っている。	コロナ禍以前は、法人全体での身体拘束に関する合同研修が行われていたが、現在は、ユニット単位で行われている。また、日々の業務の現場においては、職員間でのモニタリングや声掛けによって、身体拘束をしないケアが実現できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、勉強会等は実施されていないが、日々のケアの中で虐待を見過ごす事がないよう、注意を払い、介助等を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がいますが、制度について熟知しておらず、今後学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、活用出来るように支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や御家族等の疑問点や要望等を伺い、御理解と納得を頂くために、十分な説明を行い、不安が生じないように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映させる為に利用者様や御家族等の御意見、御要望等を尋ねたり、協議しています。また、外部へそれらを表せる機会を設けてます。	ご家族アンケートを踏まえて、介護計画を作成している。例えば、車いすの利用を控えて歩行練習に努めてほしいとの意見を介護計画に反映させるなど、基本にご家族の意見を取り入れている。当初計画の更新時に再度意向を伺っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内で会議を定期的に行い、運営に関する御意見や提案を反映させて頂いてます。	朝礼・週末ミーティングや月に一度の全体会議で、ユニット毎の職員意見をまとめて、ユニットの代表者同士で話し合い、職員意見の反映に努めている。主に職員意見が反映された事例として、利用者へのケアの改善や従業員の休暇制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲や、個々の能力が発揮出来るよう取り組み、法人内の研修を受ける機会を設けてます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は同業者との交流が出来なかった為、内部でのケアに関する意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様や御家族を交えて御意見や御要望を聞けるよう、見学の機会を作っており、安心して利用して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困ってる事、不安な事、御要望等を聞く機会を作り、入居に関する相談に応じられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談や見学の機会を作り、御本人様や御家族が、御希望されてる事を尋ね、御本人様に合ったサービスを利用出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様御本人が出来る事、出来ない事を把握し、趣味や興味を通し、共に日々を過ごし、コミュニケーションを取りながら、支えあえる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と一緒に喜怒哀楽を共有するとともに入居者様の日常生活状況を定期的に報告、説明を行い、御本人様を支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で馴染みの方の御面会や外出は自粛されていますが、一定の制限下で御家族とのご面会は可能なので、その支援に努めています。	馴染みの人から利用者に手紙が届いた際には、職員支援の下、利用者が返事を書いたり、馴染みの場所へ行きたいという要望があれば、職員支援の下、現地へ外出することもある。他にも、長崎のイベント行事には積極的に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様が孤立される事が無いよう、一人一人の状態、趣味、興味等を把握し、交流の場を作り、関わり、支えあえるように職員が会話の橋渡しを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも気軽に相談して頂けるように相談に応じ、より良い関係が続いていけるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴、現状を把握し、御要望、御意向を第一に踏まえ、一人一人の思いや暮らしに活かせるように支援しています。	入居前に以前の仕事・趣味・日中の過ごし方などを聞き取りし、利用者やご家族の今後の希望を確認している。その後は介護計画見直し時にも再度確認し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、御家族様からの情報を基に、日々の暮らしを通して、一人一人に合った暮らし方、生活環境の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での毎日のミーティング及び全フロアの週に一回のミーティングにて、情報交換を行い、日々の心身の状態、生活状況を個人記録に残し、情報把握、共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成担当者が中心となり、入居者様、御家族の御希望、御要望を基に、職員間で意見を出し合い、介護計画に反映させ、作成しています。	介護計画については3か月間のモニタリング、6か月ごとの見直しを行っている。計画作成担当者が作成した案にご家族や職員の意見も取り入れ、残存能力をできるだけ活かすような方向で計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報共有を図る為に、入居者様一人一人の日々の様子やケアの実施状況を個人記録に残し、変化等があれば、直ぐに話し合い、計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様や御家族の状況、ご要望に応じ、ユニットでの入浴介助が困難な方には、週に一回行われてるリフト浴を利用して頂く等の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム生活を豊に安心して楽しむ事が出来るように、御本人様の御意向を聞き、周辺地域との関わりを大切にしながら、支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	定期的な診察や御本人様及び御家族の御希望を大切にして、他医療機関とも連携して納得を得られるよう協力しています。体調変化があれば、随時医療を受けられるよう支援しています。	入居時に承諾をえて、併設の医療法人の方から月二回の往診を行っている。他耳鼻科などの通院は、家族対応で行っている。夜間に診察が必要な場合は医療法人に連絡して指示を受けられるような体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師や訪問看護師に入居者様の気になった点を報告、相談し、医師の指示の下、適切な支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ早期に治療退院に向けて、その入居者様の症状に応じて、医療職と情報を交換し、話し合いや相談、協力を努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所で出来る事を御家族へ説明し、主治医より御家族を交えての病状説明を行い、情報を共有し、チームで支援に取り組んでいます。	重症化し、口から食事が取れなくなった場合は主治医とご家族で相談のうえ、系列医療法人の病院への入院を調整する。看取りを行わないことは、入居時にご家族に説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応出来るように、急変や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、それを基にいざという時に備え、学習してます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	入居者様を迅速に非難させられる事が出来るように、訓練は定期的に行ってます。	現在は消防署立ち合いの訓練は実施できていないが、立地条件や、建物の状態から判断して自然災害については他へ避難する必要がない。火災についてはベルで通報できるようになっており、対応マニュアルも各フロアに設置されて職員へ周知されている。水や食料は3日分備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その人らしく生活が出来るよう、誇りやプライバシーを損なわない対応に努めています。	日々のケアで、依頼の時は声のトーンを下げてきつくならないようにするなど、言葉かけに注意をしている。行事の写真を使用することに事前に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様が決定したり、納得出来るよう入居者様一人一人に合わせ、ご希望を表現出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活リズムを大切に、御本人様の気持ちを尊重し、個別的な支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望に出来るだけ浴えるオシャレ、身だしなみが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューを献立に活かしたり、食事の準備や後片付けを手伝って頂いています。	食事は職員の手作りであるため、味付けを要望によって少し変更する(中華を和風よりの味付けに)など個々の好みを生かした対応が可能である。誕生日のケーキを職員が手作りで用意したり、地域のお菓子をおやつに取り入れるなど、食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が把握出来るよう栄養バランス、水分摂取量が分かるよう記録と支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに気を配り、各入居者様に清潔保持の大切さを説明し、出来るだけ御自分で行って頂けるよう言葉掛けを行い、困難な方には、口腔ケアを行ってます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の身体状況や排泄パターンに合わせ、言葉掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立やオムツの減少に勤めてます。	居室にトイレがあるため移動距離が短く、利用者にとっては夜間も安心できる環境である。職員間で排泄のパターンを把握し、誘導することでパッドやおむつの使用を最小限に抑える支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や適度の運動を行い、主治医による服薬の支援で便秘予防に努めてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に応じて、楽しく入浴出来るよう、各入居者様に合わせ、入浴支援を行っています。	入浴は週3回、午前中に行っている。浴室のスペースが限られているため、リフト浴が必要な利用者は土曜・日曜に別の階で実施している。利用者の好みのシャンプーなどを持ちこんでもらい、利用者が嫌がる場合は時間を変えたり違う職員が声をかけたりして自発的に入浴してもらうよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の状態に合わせて、休息して頂いたり、夜は安眠出来るように、日中の活動を充実させてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っており、服薬時も職員間で確認を行いながら、服薬の支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人に合った役割や会話等で、楽しみや気分転換が出来るよう支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御要望や内容によっては、外出が難しい状況の中、ホーム近辺の散歩やドライブ等で楽しんで頂いています。	現在は遠方への外出がなかなかできない状況なので近隣の公園に花見にいたり、事業所そばの畑で野菜を育てるなど、できる範囲での外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方には自身で管理して頂き、難しい場合は御家族へお任せしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを出したり、電話のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は安心して、居心地良く過ごせるよう、落ち着いた雰囲気を中心掛け、室温調節もこまめに行い快適に過ごせるよう努力しています。	共用スペースの利用については、過去に利用者間のトラブルや場所へのこだわりがあったため職員が注意し、仲介するようになっている。職員の得意分野を活かしたレクリエーションや掲示物を作成し、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で楽しく過ごしたい時はリビングや食堂で、一人寛ぎたい時は居室で過ごされる等、居場所の工夫を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様が安らげる部屋作りを支援する為、御本人様、御家族と相談して使い慣れたものや好みを活かし、居心地良く過ごして頂けるよう工夫を行ってます。	居室は収納以外のスペースにソファやテレビ、鏡台など好みのものを持ち込んで利用者の好みに合わせた空間となっている。各居室はトイレが備え付けとなっているが仕切りで区切られ、毎日の掃除で清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下、居室に手摺りを設けたり、一人一人の身体状態に合わせた居室作り等の工夫を行ってます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホーム モンサン井手園 2		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	令和3年7月15日	外部評価結果確定日	令和3年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、認知症をはじめとした様々な疾病に加え、自宅、御家族と離れ、それまでの馴染みの環境での生活から変化した事による不安や寂しさを訴えられる利用者様が多くいらっしゃいます。中には、ふさぎこまれてしまわれる利用者様も見受けられる為、これからの日常生活の中で職員が明るく笑いながら、関わりを多く持ち、利用者様に少しずつ明るい気持ちを持って頂けるよう、支援に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアを行う上で職員がどう利用者様と関わりを持つべきか、御本人らしさと健やかな人生を送るために必要な支援を意識しながら個別ケアと自立支援に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様とその御家族、御友人、住み慣れた地域の中での思い入れがある場所を利用者様と大事にしていけるよう、地域との良好な関係を維持できるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域にお住まいの皆様との交流会や、地域の健康相談会を実施しましたが、現在コロナウィルスの関係で困難化となっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様から頂いた御意見、御要望について、可能な限り反映させ、今後のサービス向上に努めてますが、現在コロナウィルスの影響により、困難化しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所内の様子や日常のケアに関する情報について開示し、伝達出来るよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で、職員による身体拘束防止委員会を作り、月に一度、どのような行為が身体拘束にあたるか等について、理解を深められるよう、勉強会やレジュメの配布を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待防止委員会を作り、月に一度、虐待の種類や昨今の虐待事例、その傾向について職員が理解を深められるよう、勉強会やレジュメの配布を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在実施出来てませんが、分かりやすいテキストや資料を通して、まずは要点について、職員が理解を深められる研修会を行えるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ、分かりやすく伝えられるように努めて、利用者様、御家族に十分御理解、納得して頂けるよう説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族が御意見、御要望について、伝えやすいように職員が日頃より多く関わりを持ち、時に御家族に向けて、アンケートに御協力頂く事があります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者と各ユニットのリーダー職員による会議を通して、職員から寄せられた意見について、検討、反映を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、職員の怪我や疾病等を含めた様々な事情を考慮し、本人が可能な労働時間、勤務形態で勤務出来るよう、相談に応じてます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者様に適切な個別ケアが提供出来るように、定期的に事業所内でのミーティングや勉強会等を実施していますが、法人全体での研修会が現在、コロナウィルスの影響により困難化しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響により、同業者との交流や、相互訪問が困難となっておりますが、リモートによる事業所の介護リーダー同士による事業所報告会を行いました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	例えば、自力で歩行は可能なものの、少しふらつきが有るため、横に誰かがいないと不安がある、異性の職員からの入浴介助は受けたくない、といった御要望に可能な限り寄り添い支援出来る関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自己決定が困難な利用者様や利用者様との接し方に困らる御家族もいらっしゃるため、何を望まれているか傾聴を行い、信頼して頂ける関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先的に必要とされるケアについて、職員同士で周知確認を行い、適切な支援が継続出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様御本人が介護を受ける事による様々な御気持ちの変化に注意、様子観察を行いながら、安心して過ごして頂ける支援を行ってます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御面会や御電話を通じて、ホームの生活の中で、達成した事、楽しかった事等を御本人と一緒に伝えてます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば、親しい御友人との御電話でのやり取りや、御手紙を書いてみる等の支援について努めています。字を書く事が困難な入居者様には職員が手を添える等の身体介護を行い、書いて頂きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の利用者様同士の関わりについて、具に観察を行い、仲が良好な方々、不仲な方々について理解把握し、出来るだけ、皆様仲良く穏やかに過ごせるように支援します。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新たな環境に対して強い不安や寂しさを感じ、相談に来られた利用者様や御家族のお話を傾聴し、相談内容に応じた支援を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様御本人、御家族がこれからのホームの生活において希望されてる事、不安に思われてる事を傾聴し、支援内容に反映出来るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を確認し、これまでの馴染みの暮らし方に出来るだけ近い生活環境を提供出来るよう、皆様の支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の身心の状態に注意し、御本人様に負担が無い範囲で適したレクリエーションやホーム内での運動に参加して頂けるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様御本人や御家族がこれからの生活の中で何を求められてるか、御意見、御要望を反映させながら、充実した活動が出来るサービスを取り入れた介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様によっては、急速で著しい認知症の進行や身体機能の低下が見受けられる場合もある為、あらゆる事態に備え、適宜情報交換を行ってます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出等において、出来るだけ利用者様の御要望に沿った支援を実施してましたが、昨今コロナウィルスの影響により、困難化しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常日頃より、御本人が可能な事については見守りや言葉掛けによる支援を行う等、御本人の有する能力や身心の状態に応じて、職員が適切な支援が出来るように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の協力医療機関と連携しながら、御本人や御家族が希望された医療機関の受診について支援も行い、病状悪化防止に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	御本人の現在の状態で気になった点や支援について判断が難しい事等も報告、相談を適宜行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療期間や長期化や病状悪化防止の為、利用者様の異変の早期発見に努め、医療機関と情報交換、相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、御家族が望まれるこれからの生活について、十分な傾聴を行います。当事業所が可能な支援について具体的に説明させて頂き、多様な職種と連携し、適切な支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先や心配停止時の対応方法について、各ユニット書面で周知確認を行い、定期的にAEDや防災装置について、その使用方法についても確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な防災訓練に加え、事業所内の防災委員会の活動を中心に、月に一度、各ユニットの防災設備の点検確認や災害時の対応方法について、勉強会を開催しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	例えば、排泄時、入浴時等に異性の職員からの介助を嫌がられる利用者様に関しては、言葉掛けを工夫して支援したり、職員が交代する等の対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状や性格の関係から、思いを言語化する事が困難な利用者様には、その言動や行動から希望や思いを引き出せるよう傾聴、言葉掛けに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めますが、外出や帰宅願望を強く訴えられる利用者様には適切な対応が困難な場合もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される衣服の着用に関して危険が無い、着脱のしやすさに配慮しながら、職員同士で話し合いを行い、御本人らしいオシャレが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、自力で楽しく召し上がって頂けるよう、御本人の有する能力に応じた見守り、言葉掛け、一部介助を行い、必要に応じた味付けの工夫も健康に配慮しながら行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢の利用者様の傾向として、口渇の訴えが少ない方もいらっしゃるため、常時、脱水症状等の不調に注意しながら、適宜、水分摂取出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に協力歯科による往診治療を受けて頂き、口腔内の清潔保持が出来るよう、支援しています。歯磨きを強く嫌がられる利用者様には、言葉掛けを工夫したり、うがいのみを行う等で対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の排泄間隔に合わせ、清潔保持が出来るよう支援しています。当事業所では、可能な限り、トイレ排泄が出来るよう利用者様の有する能力に応じて見守り、一部介助にて支援します。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足、水分不足等が原因の利用者様については、適宜、廊下での立ち上がり、歩行訓練やこまめな水分摂取を行って頂けるよう支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ、利用者様の希望に合わせた入浴支援が出来るように努めてますが、職員の人員体制や利用者様の身体的な事情から困難な場合もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当事業所では、利用者様に出来るだけ、日中は共同生活スペースで活動して過ごして頂き、夜間安心して熟眠して頂けるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果が効き過ぎてたり、副作用による影響で不調をきたしてないか、利用者様の状態観察に努めています。また、誤薬防止の為、服薬時は必ず、職員2名以上で氏名・日時等の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクリエーション、集団レクリエーション共に、利用者様が楽しんで頂けるように御意見、御要望を取り入れながら支援しています。当事業所では、歌唱やカルタを好まれる利用者様が多くいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルスによる影響で外出支援が困難になってますが、今年度3月末頃に桜の花見ドライブが出来るよう外出支援を行いました。今後も感染状況を見ながら、可能な範囲で外出支援を行います。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人に紛失される恐れがある事を説明させて頂き、殆どの場合、御家族に管理して頂いています。また、御要望により、御家族に相談し、少額のお金を御本人が管理出来るよう支援する場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自力では文字の記入が困難な利用者様もいらっしゃるため、職員が利用者様御本人と多く関わりを持ちながら、職員と一緒に鉛筆やペンを持って記入する等の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活スペース内での利用者様同士のトラブルや生活環境に対する不満の訴えが無いが、注視しながら、快適な空間作りを意識した支援を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様皆様の御気持ちに配慮しながら、出来るだけトラブルが発生する事無く、仲良く過ごして頂けるように利用者様同士の関係作りについて、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化から、これからの生活に対して不安や寂しさを抱えられる傾向にある為、少しでもその負担を軽減出来るよう、居室内に馴染みの物を置いたり、その配置にも配慮させて頂き、お気軽に使用して頂けるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人の有する能力や日常の過ごし方、他の利用者様との交流の様子等を観察しながら、例えば、自力歩行に見守りが必要な方は、御本人の安全面を配慮しつつ、御本人が気にならない位置から見守るといった形で自立支援を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホーム モンサン井手園 3		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	令和3年7月15日	外部評価結果確定日	令和3年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、現在出来ませんが、ドライブ(少人数)等を検討してます。また、レクリエーションに力を入れ、出来るだけ、その人らしさが見られるように趣味等を元に色々な遊びを検討してます。食事や健康面でも毎日充実して過ごせるよう一人一人配慮を行ってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも分かりやすい言葉で理念を目標とし、研修会等でも見直して実践に繋げるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを大切にし、地域の文化祭等にも入居者様の作品を出展しています。現在、コロナウィルスの影響により、地域の皆様との交流が出来てません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に当グループホームを知って頂くよう、運営推進会議等にて意見交換に努めています。現在、コロナウィルスの影響により、出来てません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナウィルスの影響により、運営推進会議の開催が困難化してるのが現状です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村役場と地域包括支援センターとは、日頃から連絡、相談を行ってます。入居希望の高齢者の方々の受け入れも行ってます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各委員会活動を行っており、その中でも身体拘束虐待防止委員会が中心となり、定期的な勉強会を実施し、身体拘束を行わないケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動にて不適切なケアについて話し合い、不適切なケアについて話し合い、職員間で検討して、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議等で話し合い、それを活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な事や疑問に思う事等、利用者様や御家族の皆様が御理解、納得して頂けるまで、分かりやすい説明が出来るよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催がコロナウィルスの影響により、困難化しているため、御電話や制限を設けた御面会の中で御意見、御要望について御家族の皆様にも尋ねています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、ケア等に関する提案、改善等を話し合っています。また、年に3回、法人理事長、社会保険労務士、施設管理者、職員による職員の能力開発面談を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休の受け入れやストレスケアを行っています。また、先述の能力開発面談を行い、目標を持って、職務に取り組めるよう環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や国家資格である介護福祉士取得に向けた実務者研修の受講も能力開発面談にて勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響により、同業者との情報交換や相互訪問が困難化しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、御本人及び御家族が抱える御要望等を聴き取り、安心して入居して頂けるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が抱える悩みや不安についてお聞きし、入居日にケアプランの説明を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の御相談から入居までの間に電話連絡等で情報交換を行い、御本人と御家族が望まれるサービスの提供を心がけてます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人が出来る事、出来ない事、どの程度のケアが必要かについて見極め、可能な限り自立した生活を送って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊の支援を行ったり、入居者様と御家族の良好な関係を継続して頂けるよう支援してましたが、現在コロナウィルスの影響により、困難化しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の訪問の訪問、御面会を希望される際には連絡が取れるよう支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルがないよう見守りを行ったり、孤立されないよう関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族からの御相談や御要望等快く応じ、出来る限り受け入れるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人のこれまでの暮らし等をお尋ねし、その御意向に沿って生活が出来るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や生活環境、介護サービス利用状況等の情報を頂き、フェイスシートの作成を行ってます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の入居者様の過ごし方や様子を記録し、職員間での情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やケア会議を基に定期的にアセスメント、モニタリングを行い、介護計画作成時に介護支援専門員、計画作成担当者、各担当フロアの職員がカンファレンスを行い、プランの作成を行って。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には各入居者様の日々の状況や介護計画に沿ったサービス提供時の反応、様子が記入されており、職員間での情報共有も取れています。介護計画の見直しの際にも活かされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の体調や状況等に応じて、病院受診や外出支援等、気分転換の敷地内散歩やドライブ等の支援を行っていますが、昨今コロナウィルスの影響により、困難化してるサービスもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウィルスの影響により、地域の行事等に参加することが難しくなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や、受診が困難な入居者様を対象に協力医療機関の主治医が訪問診療を行われます。また、眼科や歯科、耳鼻科等の専門医院にも受診が出来るよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、ハイタルサインチェックを行い、日々の入居者様の状況等を医療連携看護師に情報提供及び相談を行っています。また、体調に変化が見られた場合は協力医療機関へ症状と対応について、報告相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な際には、訪問診察時や外来診察時に主治医より入居者様御本人へ説明を行ってもらっています。また、早期に退院出来るよう相談を行っており、主治医も十分に理解されています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書にて、方針と対応について、十分に説明を行い、御理解、納得されています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変に備えて、研修を行っています。日頃より協力医療機関ともケースについて、話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害発生時に入居者様を迅速に非難させる事が出来るように定期的に避難訓練、勉強会を行っています。また、定期的にフロア及び居室の防災設備チェックを行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の意思を尊重し、丁寧な対応と言葉使いを行うよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いを否定せず傾聴し、御意見、御要望を伝えやすい環境作りを心がけてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等、御本人の要望や身心の状態に合わせ入居者様のペースに合わせた支援が出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な範囲で各入居者様の好みに合わせ、その入居者様が望まれる身だしなみやおしゃれが出来るよう支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、各入居者様の好みを献立に取り入れる事が出来るよう、管理栄養士と話をしたり、その入居者様の状態に合わせた食事の提供を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の記録を取り、栄養バランスや水分量が確保出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯の洗浄を行って頂き、御一人で行う事が困難な入居者様には、職員が口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持が出来るよう支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は可能な限り、トイレでの排泄支援を目指し、各入居者様の排泄パターンや残存能力を見極め、失敗やおむつの使用を減らしていけるよう職員間で検討し、支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の適度な運動や水分補給を心がけ、便秘予防に努めています。また、便秘症の入居者様に関しては、外来受診時や訪問診察時に主治医へ報告、相談を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各入居者様の体調や希望に合わせて、入浴の支援を行っています。また、毎日いずれかのユニットが入浴日となっている為、プライバシー等に配慮しながら、入浴したい時に入浴して頂けるよう、努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の体調や習慣に合わせた休息を取って頂くよう支援していますが、極力日中は起きて頂くよう、言葉掛けや関わりを持つよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の個人ファイルに処方薬の説明書を挟めており、適宜、確認出来るようにしています。体調の変化に合わせ、いつでも医師と連絡相談が取れる体制を確保しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の残存能力や生活歴の把握に努め、レクリエーションを行ったり、役割を持って頂き、当グループホームでの生活が充実するよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望に合わせてホーム敷地内の散歩等、職員が付き添い、支援します。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者様の認知症による周辺症状から、トラブルや困惑の原因となりにかねない為、殆どの方には御家族に管理して頂いています。持たれてる方も御家族と協議の上で少額とさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人の方との関係が途絶える事が無いように、電話や手紙のやり取りを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所の音や調理の香りから生活感を感じる事が出来るよう、照明や飾り等を考え、入居者様が不快に思わないよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや居室での生活は御本人の希望を考慮しつつ、日中閉じこもりにならないように支援しています。また、入居者様同士がコミュニケーションを取れるように職員が間に入り、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使い慣れた品物を持ち込んで頂けるよう、御家族に協力をお願いしています。認知症状や身体機能に合わせて、居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やイス、テーブルの配置等、各入居者様の身心の状態に配慮しながら工夫しています。		